

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターあすいろ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月13日		～ 令和8年4月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和8年2月13日		～ 令和8年2月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理士と相談しながら、ソーシャルスキルトレーニング(SST)プログラムを作成しており、専門的視点に基づいた支援を提供している。	児童の特性や困りごとについて、保護者や小学校等の関係機関と情報共有を行い、その内容をソーシャルスキルトレーニング(SST)プログラムに反映させている。活動の前には、過去の事例や対応経過を振り返り、職員間で共有する機会を設けることで、適切な対応方法や課題を設定している。	ゲームや遊びを取り入れた活動を通して、ルールの理解や他者との関わり方を学ぶ機会を提供し、勝ち負けへのこだわりの軽減や、友達と関わることの楽しさを感じられるよう支援していく。
2	対象年齢を小学生低学年としていることで、発達段階に応じたより個性の高いプログラムの作成が可能となっており、利用者一人ひとりの特性や課題に応じたきめ細やかな支援につながっている。	課題の達成のみを目的とするのではなく、活動の中で他者とのやり取りを通じて、交渉や提案といったコミュニケーションの力を育むことを重視している。困難な場面においても、逃避や問題行動に至るのではなく、自身の気持ちや要求を言葉で適切に伝えられるよう支援し、自己表現の力の向上を目指している。	利用者一人ひとりの特性や課題に応じた個別目標を設定して、課題の達成に向けた支援を行うとともに、達成できた経験を積み重ねることで自己肯定感の向上を図る。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎について、自宅までの個別対応や遠距離への対応を行っていない点	支援時間の確保やプログラムの質を重視していることや、職員間での活動後の振り返りや記録作成の時間を確保し、定時で帰るためにはやむを得ないと思われる。	記録業務の効率化や職員間の情報共有方法の工夫により、振り返りや支援準備の時間を確保しつつ、運営体制の柔軟化を検討する。 必要に応じて送迎範囲や方法について段階的な見直しを行っていく。
2	利用可能日数が限られていることや、長時間の預かり機能としての対応が十分ではない点が課題として挙げられる。	当事業所が児童発達支援センターとして児童発達支援を主軸としていることから、運営体制や報酬単価において一定の制約があることが要因として挙げられる。放課後等デイサービスにおいては、預かり機能を主とするのではなく、専門性や個性を重視した支援の提供に重点を置いている。	専門性を活かした支援の質を維持しつつ、利用者および保護者のニーズに応じた柔軟な支援の在り方を検討していく。限られた利用時間の中でも効果的な支援が提供できるようプログラム内容の工夫していく。保護者への情報提供や相談支援を強化し、家庭や学校と連携した支援体制を構築することで、利用日数が限られる中でも継続的な支援効果が得られるよう取り組んでいく。
3			

## 公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こども発達支援センターあすいろ

公表日 令和8年4月25日

利用児童数 12

回収数 6

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	6					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6					
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1				
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていると思いますか。	6					
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5			1		
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6					
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6					
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					
	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6					
非 常 時 等 の 対 応	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6					
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	5			1		
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			1		
	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	6					
満 足 度	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	3	3			いつも楽しそうにしています！	
	29 事業所の支援に満足していますか。	6				いつも子供達のためにありがとうございます！ ご意見ありがとうございます！	

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こども発達支援センターあすいろ		令和8年4月25日				
	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	1			・トイレ、手洗い場の数が少ない
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15			・ケア児に対してはNRSがついて安心できる。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15			・部屋の扉に動物の絵を貼っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15				・おやつ、活動での机上課題に取り組む為の机・椅子の高さが低すぎる子が出てきている事は改善が必要。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15				
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14	1			・あすいろのPDCAサイクルがピンとこない。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15			・毎日の記録に保護者がコメントできるので良い。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15			・個人面談があって伝えやすい。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	1	2	・第三者の評価結果を見たことがない。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15			・勉強会やオンライン研修を受ける機会がある	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15				
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	15				
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15				・各種ミーティングや全体でのミーティングがある
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15				
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	1	1		
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14			1	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	1			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15				
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	15				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	1			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	14	1			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	15				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15				
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14		1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	15				
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	1			・詳細がわからない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13	2			・原則2年生まで対象。 ・対象児がいない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	1			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	15				
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	1	1		・来年3月より自立支援協議協会へ参加。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15				
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15				
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15				
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	15				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14		1		

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	15				
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15				
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	13	2			
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14		1		・マニュアルの内容を家族に周知しているかわからない。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15				
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14	1			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15				・アレルギー検査の結果や聞き取り、保護者様への確認等、細かく管理していると思う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15				
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14		1		・安全計画の取組内容を家族等へ周知しているかわからない。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14	1			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15				
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	14	1			